みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

勝敗の決め手は強い精神力

蔵本　葵さん
（美原町在住）

2000年のシドニー・オリンピックで、初めて正式競技となったトライアスロンは、水泳・自転車・ランニングの3種目からなり『鉄人レース』とも呼ばれる過酷な競技です。今回は、この競技のジュニア部門のアスリートである城西大付属城西中学3年生の蔵本さんに登場していただきました。

小柄ですが、笑顔がさわやかでとてもエネルギッシュ。自分の性格を一言でいうと「負けずぎらい」と力強い言葉が返ってきました。

トライアスロンを始めたのは、お父さんの勧めもあって小学6年生のときでした。「団体競技と違って自分で頑張った分だけ結果がでる。すべて自分の責任で勝敗が決まるところが好き」とその魅力を熱く語ります。

昨年9月に国営昭和記念公園を会場として行われたJOCジュニアオリンピック杯では、3回目の挑戦で強豪選手を抑え見事に優勝を手にしました。

「競技は、自分との戦いです。ライバル選手と競り合いになったときには、心臓がバクバクして、すべてを投げ出してしまいたくなることもあります。肉体的にも精神的にも強くならなければ」と勝負の世界の厳しさを話してくれました。

1週間の練習スケジュールは、みっちり埋っています。月曜日から金曜日までは、毎日プールで2時間ほど泳いでから筋力トレーニングを行い、5～8㎞を走りこみます。また、今年からトライアスロンのチームに所属し、日曜日には、仲間と自転車の走りこみの練習をします。

チームの中には、オリンピックを目指して練習に励む大学生もいて感化される部分も大きいとか。

「将来のことはまだ決められませんが、トライアスロンは続けていくつもり。多くの人に競技の魅力を知ってもらえたらうれしい」と目を輝かせます。

航空公園のトリムコースを黙々と走る少女がいたら、それは彼女かもしれません。体と精神を鍛えて、世界に通用するトップアスリートになってください。

風をきって走る自転車選手

▲ダルマは、倒しても起き上がることから縁起が良いとされています。「水天宮のダルマ市」。
1月5日(月)／久米水天宮

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 46

北岩岡・八幡社

岩岡民右衛門の碑

富岡地区には、「北岩岡」と「岩岡町」の2つの「岩岡」がつく地名があります。地名の由来は、江戸時代にこの地の開発を手がけた岩岡氏の名前にちなんでいます。

岩岡氏がこの地の開発を手がけたのは享保年間（1716～36）の後半でした。岩岡氏は、当時、山口町谷村の名主でしたが、8代将軍吉宗が進めた、いわゆる武蔵野新田開発により、町谷新田の開発にあたりました。当初の開発は村が請け負っていました。しかしその後、隣接して進められていた岩崎新田と堀之内新田が開発の権利を有力農民であった岩岡氏に譲ることになり、宝暦8年（1758）にそれらをまとめて岩岡新田と称することになったのです。

武蔵野新田開発は、なかなか進まなかったことで知られています。とりわけ狭山丘陵北側の「所沢原」の地域は進まなかったといわれています。将軍吉宗は、開発を江戸町奉行であった大岡越前守忠相（ただすけ）に任せましたが、難航しました。上坂安左衛門（うえさかやすざえもん）という代官の案で、未開発地の年貢を高く設定し、開発すれば低くするという施策が効を奏して、ようやく動き出しました。しかし、それでも岩岡新田のように開発の権利を有力農民に譲る村が続出しました。

八幡神社

「北岩岡」の地名は、明治8年に北田新田と岩岡新田が合併してできた北岩岡村からきていますが、北田新田も所沢村の北田善右衛門という町人が手がけた新田です。

北岩岡の八幡社には、岩岡氏の碑が建っています。碑文は、開発を最初に手がけた岩岡太郎左衛門の孫にあたる民右衛門が記したもので、文面には、岩岡氏の事績が書かれています。また、同社の鳥居には、民右衛門が詠んだ「武蔵野にうつす八幡の神やしろ…」という歌も刻まれています。

享保の新田開発により、市域では延べ約400ヘクタールが開発されたといわれています。あの元禄時代の川越藩による三富開発の1、400ヘクタールには及びませんが、かなりの規模だったことには、違いありません。北岩岡の八幡社は享保の新田開発と地名の由来となった岩岡氏を偲ぶことのできる場所なのです。

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「勉強」▶今年も受験シーズンがやってきました▶勉強をしているときは辛いものですが、結果が出たときの達成感はなんともいえませんね▶皆さんの勉強にまつわる苦労話などをお寄せください▶締め切りは2月12日(木)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1－1－1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲所沢でもいちご狩りが楽しめます。甘い香りとその食感は早春の訪れを感じさせます。
1月17日(土)／柳瀬地区・城のいちご農園

▲今日から大人の仲間入りです。多くの友人と将来の夢を語り合った「成人のつどい」。
1月12日(祝)／吾妻公民館

少子イクル ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

●**譲ります**　▷洗濯機▷キーボード▷パソコンモニタ▷ドラムセット▷充電式掃除機▷ギター▷電子オルガン▷電子ピアノ▷自転車（18・20インチ）

●**求めます**　▷男子用スーツ▷女子用着物▷テーブルといす4脚▷バイク▷もちつき機▷電動芝刈り機▷一輪車▷ラジカセ▷パソコン▷レーザーディスクプレーヤー・ソフト▷麻雀卓（テーブル式）

◎このほかにも多数登録されていますので、お問い合わせください。

受付方法　電話による先着順で紹介します。
休館日　月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

誰でもエッセイ

テーマ　魔法

魔法が使えたら

中新井・高橋　祥子

私が魔法使いなら、まず愛のキューピットになり、結婚しない若者に愛の矢を放ち、結婚させて可愛い赤ちゃんをたくさん育ててもらい、少子化を止めたい。我が家にも結婚しない娘が1人います。

次に、日本の景気を良くし、リストラも自殺者もなく、高齢者や子ども、障害のある人も、誰もが生きていることのすばらしさを感じる世界にしたい。

最後は、世界中が平和であるようにと戦争やテロの愚かさを教えて、世界中に笑顔があふれる魔法をかけたい。その魔法は永久に消えることがない。

そんな魔法の薬を誰かつくってくれませんか。

人影

和ヶ原・山ノ井　義治

電車の前席に人目を引く人が座るときがある。品の良い老夫婦、仕事がバリバリできそうなビジネスマンや凛としたキャリアウーマン。そして、とびっきりの美人。その人たちの過ごして来た人生や行く末の人生を想像するのも良い時間つぶしになる。

だがオーラに輝く人々が、魔法のように一つ然と消滅したかのような錯覚を覚えるときがある。読みかけ中の本に目を戻したときや、つい居眠りをしたすきに降車したに違いないのだが、目前の空席の静かな空間には、一抹の寂しさが漂う。

人が命を終えるときに残るのは、思い出や面影のみという。

たとえ、行きずりでも鮮烈な印象を与えてくれた白昼の夢のような人影は、貴重なものかもしれない。

私って魔法使い

松郷・石原　晃子

「プリントはどこにあるの」「体操着と帽子はどこ」「給食のかっぽう着は洗ってあるの」「名札つけたの」等。幼稚園児、小学生、中学生と3人の男の子の子育ては大変で、あのころの私は魔法使いでした。

時は経ちましたが、「そこに置いてあったあれ（書類）は」「この前届いたあれ（ハガキ）は」…と主人。「あれ（映画）良かったね」「この人（俳優）誰」…と姉。「あれ」「これ」「それ」とまるで魔法語。でも私にはわかるのです。

もしかして私って魔法使いって思うことがあります。なぜなら、私を不愉快にさせた相手に困ったことなどが起きることがあるからです。

でもね、言っておきますけど、私はそのことを願っているわけでもありませんし、つえを振り上げて魔法をかけたり、ほうきに乗って空を飛び回ったり…なんてことは決してしていません。

歌は「魔法」

東町・粕谷　英子

「上を向いて歩こう」に元気づけられ、「叱られて」に涙し、「旅愁」に今はとき父母を偲び、「見上げてごらん…」に心癒され、そして「夕焼け小焼け」に望郷の念にかられる。

歌を口ずさむとまるで魔法にかかったみたいに心洗われるように思う。

「どうかお父さんが帰っていませんように」と幼少のころ、友と遊び過ぎて帰りが遅くなると父に叱られるので、心の中で念じながら道を走った記憶がある。

そうすると不思議なことに父はまだ帰宅していない。「魔法だ！」と思ったものである。

今の自分にとっての魔法は「歌」である。もう一つ、世界の平和のために使える「魔法」はないものだろうか。

引き寄せの術が使えたら

宮本町・大島　良英

お正月の休みが明け、仕事始めの日の朝の出来事である。いつもの駅に着き、改札を通ろうとして定期入れを出した瞬間、私の顔からすっと血の気が引くのを感じました。何と入っているはずの定期券がないのです。

こんなとき、「ハリーポッター」に出てくる引き寄せ術の魔法が使えたらと、どんなに願ったことか。

我が家では、家族全員が熱狂的な「ハリーポッター」ファンです。現実と空想が入り混じったストーリーは、大人も子どもも不思議な世界に連れて行ってくれます。

母の魔法

並木・横須賀　みどり

「色が白くて、かわいいね」。もの心がつくようになって聞こえてきた母の言葉です。

成長の節目ごとに、まるで魔法の呪文のごとく声をかけてくれました。母の魔法にかかった私はのびのびと育っていきました。

今想えば、少しだけ障害を持って生まれた娘に対する精一杯の愛情表現だったように思います。

大人になってからは、魔法は必要なくなったけれど、今度は、年老いた母に魔法をかけてあげたいと、修行の日々を過ごしています。

とことこ 町内会めぐり

【新所沢東地区・松葉町町会】
～ふれあいのあるまちづくり～

松葉町町会は、新所沢駅東口に位置し、交通の利便性や良好な環境から都内をはじめ各地から移って来た人々で形成され、発展してきました。

連携・親ぼくを通じ新しいまちづくりを目的に、昭和37年に50数人で町会を結成しました。その後、幾多の変遷を経て、現在は会員数800人のほか、賛助会員（事業所）を含め900に近い会員を有しています。

町会では、各事業部を中心に納涼大会をはじめ各事業に積極的に取り組みながら、行政と住民との橋渡し的業務や情報の伝達に努めています。

また、集団資源回収では、年間250人以上の参加者を得て、健康づくり、友達づくりを兼ね、皆さん楽しく1軒ずつ回収しています。高齢者の家庭には一声かけるなど、住んでいるまちの良さやすばらしさを実感できるひとときでもあります。

今年は、彩の国まごころ国体・バレーボール会場となる市民体育館までの通りを、全国から応援に来る皆さんのために、花いっぱいにすることを計画しています。

さらに、商店会の方々にも、防犯装飾灯の設置や一部電柱の地中化などに協力していただいています。

これからも環境・防犯などに積極的に取り組み、近隣自治会とも連携を図りながら、地域の活性化に努めていきたいと考えています。

多くの参加者を得た集団資源回収

――次回のテーマは「勉強」です――